

令和2年度 第1回今治市廃棄物減量等推進審議会 会議録

1. 日時：令和2年7月30日（木）午後1時30分～午後2時30分
2. 会場：バリクリーン1階多目的室
3. 内容
 - 1) 開会
 - 2) 市長挨拶
 - 3) 委員紹介
 - 4) 会長、副会長の選任
 - 5) 議事
 - (1) 今治市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について
 - (2) 質疑
 - 6) 閉会

4. 出席者

< 委員 >

石見和子	委員	長谷部眞一	委員	森敏夫	委員
村上恵子	委員	村上正子	委員	上野鮎美	委員
喜田ヒサ子	委員	石崎美恵子	委員	井手克彦	委員
水口和幸	委員	村上伸幸	委員		

< 事務局 >

今治市長 菅良二
越智市民環境部長

(リサイクル推進課) 加藤課長、越智課長補佐、長谷部課長補佐
村上課長補佐、村上係長
(環境政策課) 八木課長、渡部課長補佐
(委託業者) 株式会社建設技術研究所 池田氏、糸賀氏

会議の記録（概要）

1 開会

2 市長挨拶

- ・（菅市長）審議会開催にあたっての挨拶を行った。

3 委員紹介

- ・（各委員）各委員による自己紹介
- ・（事務局）委員12名中11名の出席により、本審議会が成立していることを確認した。

4 会長、副会長の選任

- ・（事務局）会長、副会長の選任については、委員からの互選をお願いしたい。
- ・（A委員）会長に村上伸幸委員を、副会長に石見和子委員を推薦する。
- ・（各委員）異議なし。
- ・村上伸幸委員が会長、石見和子委員が副会長に選任された。

5 議事

(1) 今治市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定について

○資料2 一般廃棄物処理基本計画策定の概要

- ・（事務局）資料2に基づき、事務局より内容説明

○資料3-1 今治市のごみ処理状況

- ・（事務局）資料3-1に基づき、事務局より内容説明

○資料3-2 将来ごみ排出量（時点版報告）

- ・（事務局）資料3-2に基づき、事務局より内容説明

○資料4-1 市民アンケート調査内容

- ・（事務局）資料4-1に基づき、事務局より内容説明

○資料4-2 事業者アンケート調査内容

- ・（事務局）資料4-2に基づき、事務局より内容説明

(2) 質疑

- ・ (B 委員)

他市町と今治市の現状の比較は新居浜市だけか。他の市町との比較は行っていないのか。

→ (事務局)

新しい計画を作成するにあたって人口動態が類似している近隣市を抽出した結果、新居浜市との比較となった。

- ・ (B 委員)

新しい計画では、住民にもわかりやすいよう、図やイラストを差し込むなど工夫されたい。また、計画内容の周知の方法として、松山市のように庁舎に懸垂幕を設置するなど、合わせて検討されたい。

→ (事務局)

頂いた意見について検討を進め、計画策定を行っていききたい。

→ (事務局)

人口 50 万人以上の自治体の中では松山市の 1 人 1 日あたりのごみ排出量は全国トップレベルである。また、人口 10～50 万人規模の自治体で比較すると、東京都小金井市は 605g/人・日と十分低い値となっている事例もある。

- ・ (C 委員)

小金井市のように、1 人 1 日あたりのごみ排出量が低い自治体ではどのような施策を実施しているか。

→ (事務局)

小金井市は戸別収集を行っており、その効果もあると考えている。以前、視察に訪れた静岡県掛川市では、今治市と同様に容器包装プラスチックを袋で排出せずに、ステーションのネットに直接排出する方式をとっている。また、同市では、合併に伴い焼却施設の処理能力の不足が懸念されており、特に資源化に関する施策に力を入れていたと聞いている。

- ・ (D 委員)

現在実施している施策を強化していくことも重要であると考えられる。特に雑紙のリサイクルや生ごみ処理機の導入についてはさらなる取り組みが必要である。

→ (事務局)

雑紙のリサイクルや生ごみ処理機の導入に関して、啓発を行っており、今後も継続していききたい。

・（E 委員）

容器包装プラスチックの排出方法がわかりにくい。しっかり洗う必要があるのか、濡れていたら資源として排出できないのか等、市民にわかりやすいように説明する必要がある。家庭ごみに関しては男性よりも女性がしっかり取り組んでいる印象がある。今後は男性に対する講習会等、ターゲットを絞った施策の展開も検討してほしい。

・（E 委員）

ごみは全体的に減らさないといけないことは理解しているが、資源物が増えることはよいのか。

→（事務局）

燃えるごみに混入している資源物をしっかりと資源として回収することが重要であると考えている。ごみ全体として減量を目指していくが、資源物が増えていくことに関して問題はない。資源物が増えることでリサイクル率上昇につながる。

・（F 委員）

生ごみ処理機の補助実績を教えてほしい。また、実際にどのように生ごみを処理できるのか。

→（事務局）

年間 120～130 件の申請がある。生ごみを乾燥させることで水気がなくなりその分だけ重量も減らすことが可能である。また、乾燥した生ごみをたい肥として利用したり、水分は液肥として利用したりすることも可能である。

・（G 委員）

分別の細分化により、収集日がいつなのかわかりにくくなる。特に高齢者にはわかりにくいのではないか。また、現在住んでいる地域では、当番制で収集日になるとステーションに人を配置し、排出の指導を行っている。行政の立場として何か対策は考えているか。

→（事務局）

収集日に関してはごみカレンダーを全戸配布して周知している。また、ごみ収集に関するスマートフォンアプリの展開を始めた。高齢者のごみ排出に関する問題は重要であると認識しており、今後検討をしていきたい。

- ・（村上会長）

次回審議会では、アンケート結果を踏まえた目標設定について議論したい。

6 その他

- ・（事務局）

次回審議会を10月2日（金）の13時30分からの開催を予定している。

7 閉会